

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-40742

(P2004-40742A)

(43) 公開日 平成16年2月5日(2004.2.5)

(51) Int.Cl.⁷

H04N 7/18

H04N 5/225

F I

H04N 7/18

H04N 5/225

H

C

テーマコード (参考)

5C022

5C054

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2002-225346 (P2002-225346)

(22) 出願日 平成14年7月1日(2002.7.1)

(71) 出願人 597086531

有限会社エムカ

東京都中央区日本橋馬喰町1-2-6

(72) 発明者 小田島 直美

東京都中央区日本橋馬喰町1-2-6

Fターム(参考) 5C022 AA05 AC03 AC31 AC54 AC77
AC78

5C054 AA01 CC02 CD06 FA02 HA18

(54) 【発明の名称】 ドアスコープ画像拡大表示ユニット

(57) 【要約】

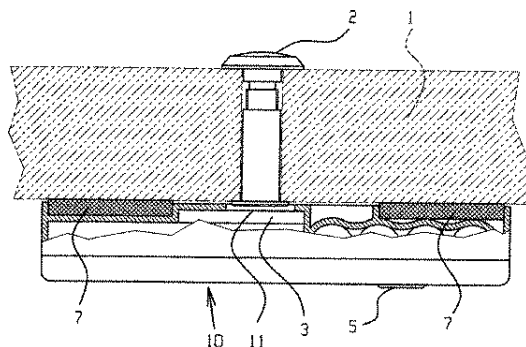
【課題】 玄関ドアのドアスコープの可視画像を拡大表示することで、安価に、確実に見易くすることを提供するものである

【解決手段】

画像制御回路、モニター液晶画面、電源部、スイッチ部から成る表示ユニットの裏面に磁石を固着して構成し、その磁力でドアスコープ室内側ドア面に装着することで、ドアスコープ可視画像を拡大表示する。

【選択図】

図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画像制御回路、モニター液晶画面、電源部、スイッチ部から成る表示ユニットであり、その表示ユニット裏面に、磁石を固着して構成されたことを特徴とし、その磁力でドアスコープ室内側ドア面に装着することで、ドアスコープ可視画像を拡大表示する、ドアスコープ画像拡大表示ユニット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、ドアを開ける前に、訪問者を確認するドアスコープの可視画像を拡大表示して見易くする、ドアスコープ画像拡大表示ユニットに関するものである。 10

【0002】

【従来の技術】

従来から、特に玄関ドアに取り付けられているドアスコープを見ると、ドア面に目が接するほど近づかないと訪問者を確認することが出来なかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

このため、覗き見するという姿勢の罪悪感、体勢に、無理を生じ、訪問者を確認しないままドアを開けたり、又、目を近づけるため、ドアスコープが一瞬暗くなり、中に人が居て外を覗いているのが判る場合がある。 20

本発明は、拡大して見ることで、無理な姿勢をする必要がなく、ドアスコープ室内側にドアスコープ画像拡大表示ユニットを装着することで、中に人が居ることを判らなくすることを提供するものである

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成する本発明に係るドアスコープ画像拡大表示ユニットは、ドアスコープの可視画像を解像し、その画像を電子映像に変換するための画像制御回路を有し、その映像を表示するモニター液晶画面と、電源部、スイッチ部から成る表示ユニットに、磁石を固着したもので、この磁石を内装した表示ユニットを、ドアスコープの室内側に装着することで、ドアスコープ可視画像を拡大して見る事が出来るようにしたものである。 30

【0005】

【発明の実施形態】

次に本発明を図面に基づいて説明する。

図1は本発明に係る要部断面平面図、図2は図1の正面図、図3は本発明のブロック図、図4は木製、アルミ製ドアに取り付ける場合の実施例を示す要部断面平面図、図5は図4の要部断面側面図である。

【0006】

図1、図2に示すように画像制御回路3、モニター液晶画面4、電源部6、スイッチ部5から成る表示ユニット10の裏面に磁石7を固着したものであり、表示ユニット10のドアスコープ2との合わせ位置に穴11を明けたものである。 40

この表示ユニット10を従来からあるドアスコープ付きの鉄製ドア1に使用するには、表示ユニット10の穴11をドアスコープ2のフランジ部に合わせ、装着する。表示ユニット10には磁石7が固着されているのでその磁力で鉄製ドア1と表示ユニット10は不動となる。

木製、アルミドアの場合は、図4、図5に示すように、鉄板8のバーリング穴13をドアスコープ2のフランジ部に合わせ、ねじ9で、木製、アルミドア12に固定する。上記に示す鉄製ドア1と同様に使用できる。磁力はドアの開け閉め、地震等の振動に耐える強さとする。又、ドアスコープは既設の魚眼レンズ式でもよく、広角レンズ等に交換又は新設しても良い

【0007】

訪問者を確認する時、スイッチ5を押すことで電源がONとなり、ドアスコープの画像が、モニター液晶画面に拡大表示される。スイッチ5は押している間だけ電源ONでもよく、タイマー機能を持たせ一度押すだけで設定した時間内のみ電源ONでもよい。

【0008】

【発明の効果】

以上のように、本発明に係るドアスコープ画像拡大表示ユニットによれば、画面を見するという行為から、覗き見するという姿勢の罪悪感がなく、ドアに目を近づける無理な姿勢を取ることなく訪問者を確認できる。又、ドアスコープ室内側に表示ユニットを装着することで、室内の光が遮断され、中に居る人がドアに近づいたことを判らなくする効果もあり防犯上有効なものである。 10

又、周知の防犯カメラ、テレビ付きインターホン等は、音声、映像機能の他、カメラ、ビデオ、ビデオ再生機能、接近センサ等多機能を搭載し非常に高価である。これらを既設の住居に新規に取り付ける場合、配線、取り付け工事が必要となりさらに高価なものとなる。本発明のドアスコープ画像拡大表示ユニットによれば、安全に、確実に、簡単に見易くする機能だけにすることで安価に提供できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る要部断面平面図

【図2】図1の正面図

【図3】本発明のブロック図 20

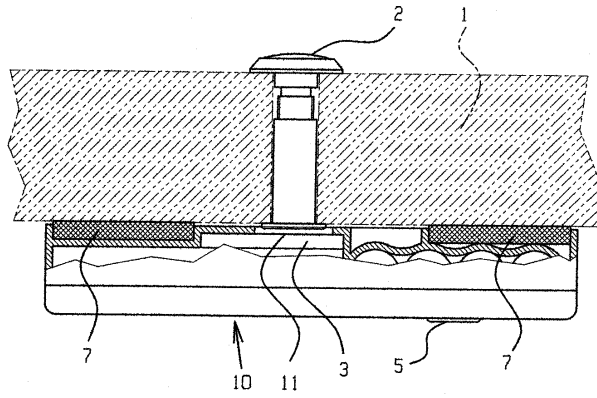
【図4】本発明に係る木製、アルミ製ドアに取り付ける場合の実施例を示す要部断面平面図

【図5】図4の要部断面側面図

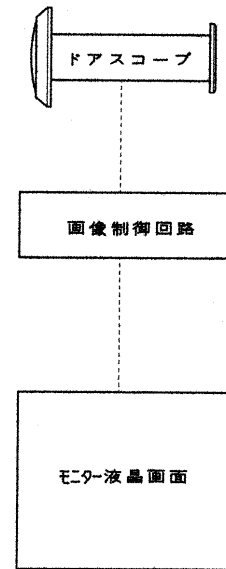
【符号の説明】

1	鉄製ドア	1 1	穴
2	ドアスコープ	1 2	木製、アルミ製ドア
3	画像制御回路	1 3	バーリング穴
4	モニター液晶画面		
5	スイッチ部		
6	電源部		
7	磁石		
8	鉄板		
9	ねじ		
1 0	表示ユニット		

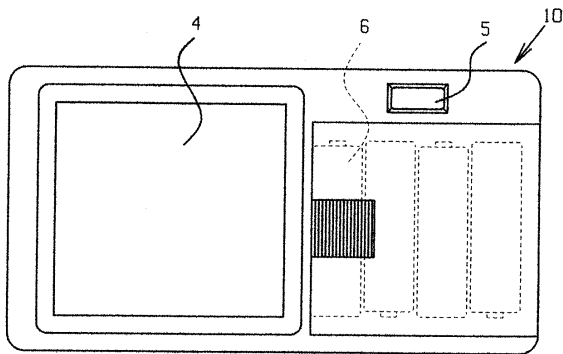
【図 1】



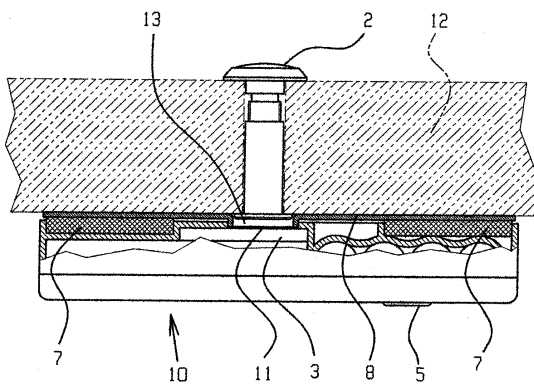
【図 3】



【図 2】



【図 4】



【図 5】

